

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

1. ワクチン接種について

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
伊藤久美子	ワクチン接種の予約について、年齢別にもっとわかりやすく親切な案内を工夫したほうがよいのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報さかい→6・7・8月号2面で接種予約スケジュール、集団接種会場などについて大きく掲載 ○ 市HPトップページに新型コロナワクチン接種ポータルサイトを作成し、接種の流れやスケジュールについて掲載
	かかりつけ医を持っていない人は、訪ねる病院もなく、インターネットで探すも今は受け付けるところがありませんと表示されるだけで、非常に困っている人を良く見かける。もう少し、交通整理が必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市HPの新型コロナワクチン接種の予約方法のページで直近の受付開始分の空き状況を掲載
山本章雄	ワクチン接種について若年層の接種率が低い傾向にあるため、ワクチンに関する啓発を行ってはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市HP上で「新型コロナワクチン予防接種についての説明書」を製薬会社ごとに掲載（音声版含む）。
静又三	行動範囲の広い若い年代の人には、早くワクチン接種を実施することで、家族や社会全体を守ることができるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 12歳以上29歳以下の方の予約受付を8月30日から開始
貝谷理穂子	二十代の感染が広がってきているので、ワクチン接種を若者もすぐに打てるようにしてほしい。	
伊藤久美子	今回のワクチン接種について、自治会でも予約できるような仕組みや、誘導等がとれていたら、もっとスムーズに予約ができたのではないか。	
金澤正巳	より早くワクチン接種を進めるため、医療機関ごとのワクチンの余りや不足分の調整ができるような仕組みができないか。	
山本章雄	ワクチン接種について、堺市が行う接種と大規模接種・事業所接種を連携する枠組み（横の糸）を構築し、効率化を図ってはどうか。	
小倉弓果	コロナワクチン接種率が低い若年層への啓発について、若年層が情報収集によく使うSNSを活用してはどうか。	

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

貝谷 穂子	泉佐野市や大阪市のように、堺市にも PCR 検査センターを作ってはどうか。自粛を呼び掛けても、一定数外出する人はいる。外出する前に検査できる場所を作ることにより、自覚症状のない感染者から感染することを防ぐことができるのではないかな。	
桂 恵輔	ワクチン接種によって規制を緩和するなど、ワクチン接種による明確なメリットを提示してはどうか。ワクチンの接種率の増加につながるのではないかな。	
廣幡 亮太郎	ワクチンが供給過多になった段階において、打つワクチンを選択できる、また、何社のワクチンがどこにどれくらいあるのかわかるアプリを開発してはどうか。ただし既存ベンダーではなく起業家に市場単価より少し安い値段で発注する。経済回復のためにはより高いワクチン摂取率が求められる。	
廣幡 亮太郎	コロナワクチンの摂取率を市内全域で調査し、経済活動の再開について府に要請するとともにワクチン接種者に対する行動規制緩和及び消費に対する支援策を講じ、諸外国のように徐々に締め付けを解除してはどうか。 これに伴い、地方自治体の管轄である医療機関及び保健所拡充を早急に取り組む必要があると考える。民間病院のコロナ受付拒否などの問題があり公立病院の必要性は大いにあると考える。箱物事業化を阻止するためには公民館などの一部を野戦病院として転換することも検討すべきではないかな。	
米田 啓吾	ワクチン接種率を上げるために、インセンティブの提供、ワクチン休暇取得勧奨を行ってはどうか。 また、中高生の接種を促すべく土日に学校を接種会場とする、仕事で平日夜間に接種が難しい方を対象に平日夜間接種会場の開設も行ってはどうか。	

2. 健康増進と心のケアについて

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
中辻 さつき	コロナ禍であっても高齢者が集まって体を動かす、また認知症予防を行うことができる取り組みが必要ではないかな。高齢者の在宅期間が延び、足腰が弱り、認知症が進んでいるように感じる。	△ StayHome 応援企画「おうちで体を動かそう」で、堺市 HP 上にて動画を公開 ・堺コッカラ体操 パプリカ編 ・ロコモ体操！！保健師編

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

桂 恵 輔	大学が全てオンラインだった時はほとんど外出しておらず全く運動できていなかった。コロナ禍において運動不足に陥っている人は多くいると思うので、運動を推奨するキャンペーンをしてみると良いのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやかカラダ体操 ・すこやかお口体操 ・堺プレイザーズによる家トレ動画
山 口 睦 季	運動不足やストレスを解消するために、市内放送で定時にさかいっこ体操やラジオ体操の音楽を流してはどうか。	
貝 谷 理 穂 子	一人暮らしの人は、自粛の影響で誰も親しく話せる人がおらず、たくさんの悩みを抱えている人が多いと思う。そのような人たちが気軽に相談できる場があればよいのではないかな。	<ul style="list-style-type: none"> △ 各種相談窓口、コールセンターの開設 ・新型コロナ こころのフリーダイヤル ・こころの電話相談 ・新型コロナ受診相談センター（症状有） ・府民向け相談窓口（無症状） ・SNS 相談窓口「大阪府こころのほっとライン新型コロナ専用」（LINE による相談）
廣 幡 亮 太 朗	テレワーク及びオンライン授業で心が病むことを防止するため、心理カウンセラーの提供をしてはどうか。	
米 田 啓 吾	ケースワーカーを学内に配置し、学生が相談しやすい環境を設けてはどうか。	
小 倉 弓 果	3密を避けるなどして小規模でも地域の人が集まる場の運営再開を促すと、救われる人が多くいるのではないかな。オンラインでは対面での会話に比べて、自由な対話ができない・表情や言葉のニュアンスが読み取りづらいというもどかしさがあり、人との交流では対面に勝るものはないのではないかな。	
神 崎 隆 之 介	コロナ禍で家にいる時間が増えたことによってDVや虐待などの問題が増加していると耳にすることが多くなった。子供の精神的な健康も守る必要があるのではないかな。	
廣 幡 亮 太 朗	健康促進のために、大阪府のアスマイルと連携して自宅できる健康法や堺市内の穴場ウォーキングコース、および地域の飲食店のみで使えるクーポンなどを配信してはどうか。市内における健康意識増進とともに市の魅力発信及び地域経済活性化にも寄与するのではないかな。	

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

3. 防犯について

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
静又三	マスクをしていることによって顔が見えにくく、そのためにひったくり等の犯罪が増えることのないよう取り組みが必要ではないか。	
廣幡亮太郎	防犯カメラの整備に力を入れてはどうか。 メインを認知症の方や子供の安全確保を主眼に置くことにより市民の理解を得やすい。またプラスアルファで自転車事故削減を盛り込むことにより、より一層の安心安全のまちづくりと自転車のまち堺をアピールできると考える。	

4. 孤立化防止について

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
松居勇	オンライン弱者に対する支援策の充実を図ってはどうか。若者は当たり前のように活用しているので、自宅にいながら他者の顔を見てコミュニケーションをとることなどに特別な感想を抱かないが、それができるだけ喜ぶ高齢者等もいるのではないか。アフターコロナでも有意義に活用できるものでもあるので、ニーズが高まっている間に意識的に推進してはどうか。	○ オンライン講習会・電話サポート・端末貸し出しなどにより、認知症の方やご家族、支援者が安心してオンラインで交流できる「オンラインぬくもりカフェ」を実施予定
小倉弓果	大学では換気やアルコール消毒の設置、学生への注意喚起など、十分な感染予防対策をとっているのに、緊急事態宣言でも対面授業を前提とした授業は対面で実施してほしい。下宿生にとってはオンライン授業では人との交流の場も失うことになり、精神面での影響も大きい。	
陳代修平	Zoomをつないで一緒に体操したり、一緒に朝ごはん食べるのはどうか。	
廣幡亮太郎	コミュニケーション促進の一環として、各自治体に存在する公民館などでの参加しやすい形でのイベントの開催促進をしてはどうか。	

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

山口 睦季	高齢者の交流の機会を作るため、月（週）一回市が提示したあるテーマについての思いや考えを紙に書いてお便りとして高齢者の方々に送っていただき、寄せられたお便りを集約したものを堺市広報として配布してはどうか。同じ話題について考えている人がいることや自分の言葉が誰かの目にとまっているという事実が、疎外感を感じている高齢者の方々の心を和ませるのではないかと。	
米田 啓吾	コロナの影響で老人ホーム・介護施設に家族でも入ることができなくなっているため、施設の方々に協力を頂いて、行事事のある日はオンラインで催しを開くのはどうか。	

5. 飲食店等支援について

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
高田 彩加	区内の小売店や飲食店で使えるクーポンを発行してはどうか。使える場所を区内に限定することで、区内の事業者の支援を行え、区民も住んでいる地域に近い場所だと利用しやすいのではないかと。飲食店だけでなく小売店にも支援が行き届けられるのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> △ 市内飲食店応援プロジェクト「みらい飯」（第1・2弾）・・・クラウドファンディングを活用した市内中小飲食店で利用できる30%のプレミアム付き食事券の発行 △ キャッシュレス決済を活用したポイント還元キャンペーン
高田 彩加	飲食店がデリバリーサービスを提供しやすくなるように、デリバリーサービス導入の補助金を出してはどうか。お客さんもデリバリーで飲食店を利用しやすくなり、飲食店側もデリバリーによる収益が出るのではないかと。	
協田 利奈	飲食店をはじめ、コロナ禍で困っている人に、学生が力になれる場があれば協力したい。部活動などができていないため、学生側の何かやってみたいという意欲も高いのではないかと。	

6. 金銭的支援について

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
廣幡 亮太郎	テレワークなどによる電気代に関して、補助金による補助や、市税引き下げによる対応をしてはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> △ 各種公的料金の徴収猶予や減免・減額 <ul style="list-style-type: none"> ・市税（徴収猶予） ・固定資産税（減免・減額） ・水道料金・下水道使用料（徴収猶予） ・介護保険料（減免・徴収猶予） ・後期高齢者医療保険料（減免・徴収猶予）

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

		<ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険料 (減免・徴収猶予) ・国民年金保険料 (免除・納付猶予・学生納付特例)
澤本美奈子	緊急事態宣言が出ている間だけ学童利用の料金を日割り計算や、半分の出席だと半額にするなど保護者の負担を減らしてはどうか。それにより出席人数が減り、密を防ぐこともできる。	

7. 図書館運営（利用）について

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
藤田浩子	<p>不要不急の外出を控えてもらう為には、在宅してもらえる工夫が必要。堺市民として無料で利用できる施設（図書館）は閉館するのではなく、有効に利用できるようにしてはどうか。</p> <p>例として、大阪狭山市は早い時期からカウンターを完全にシールドで覆うという措置を取り、「予約した本の受取と返却」を開始していた。返却本は丁寧に一冊ずつ消毒し、貸出し本は、カウンターで消毒して手渡した後、出入り口の図書除菌機を通すことで安心な本の貸借を可能にしていた。</p> <p>結果、狭山市民は休校になっても独自の学びを止めることなく進めていたし、在宅時間を持て余してフラフラと出歩く人も少なくなっていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> △ 図書郵送サービス（モデル実施） △ 堺デジタル図書館 △ 堺市オンラインミュージアム
小倉弓果	図書郵送サービスを行っていたが、予約本の貸し出しサービスのみで開館してはどうか。予約本の貸し出しのみであれば短時間の滞在で済み、濃厚接触することもないので安全ではないか。	
小倉弓果	図書館などの公共施設で行われていたイベントをオンラインで開催してはどうか。イベント休止がたくさんあったが、そのような場所に来る人は、イベントだけでなく、他の参加者との交流を楽しみにしていた方も多いのではないか。	

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

8. 子ども食堂支援等について

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
米田 啓吾	生活に困っている方々(学生含む)への食糧支援を区役所で行ってはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> △ 生活困窮者自立支援金 (地域共生推進課) △ 無利子での資金貸付 (堺市社会福祉協議会)
高田 彩加	子ども食堂やフードパントリーなど民間が行っている支援やサービスについても、(特にひとり親世帯などに向けて)情報を届けてはどうか。子ども食堂はコロナだからやっているというわけでも、生活が苦しい家庭だけを対象にしているわけでもないが、収入が減った家庭などに対して間接的な支援につながる可能性があるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> △ 市 HP に「さかい子ども食堂ネットワーク」のページへのリンクを掲載
太田 佳世	子ども食堂について、定期的に安定した支援に繋がるよう運営の資金援助をしてほしい。家庭の相談など適切な機関へつなぐためにも行政との連携を強化してほしい。年々ニーズが広がってきており、特にひとり親世帯への支援が増えてきている。今後も力を入れていきたい。	
森田 裕之	コロナ対策について、行政で可能なことには限界があり、金銭的な支援はストックできてしまうため、必要性の小さな人も対象としてしまう危険性がある。 一方で本当に困っている、つまり食事にも困るような方には積極的に支援する必要がある。必要性の小さな人も申し出るのを防ぐためには所得状況の確認など必要となり、かなりの労力やコストを必要としてしまう。 そこで、子ども食堂などの実態を把握するとともに、必要性が存在するならば、年齢を限定して食事の提供を支援することが、もっとも簡単な方法の1つではないかと考えられる。	
陳代 修平	飲食店を救う一環として、一定のテイクアウト商品を市で買い上げ、配ってはどうか。 感染状況を鑑み、公民館などの場所を提供できるのであれば場所を開設、厳しい場合は、食事をコロナの自宅療養者向けに配る食事と一緒に児童の状況確認を含めて配達すればどうか。 貧困層の子供は親にお金をとるための道具として使わ	

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

	れることもあり、虐待などの被害から児童を守ることを何よりも重視すべきと考えます。	
--	--	--

9. その他

	ご意見の要旨	関連する実施済み施策
貝谷理穂子	イベントに関して、中止一択にするのではなく、できる限りの感染対策をしての開催という選択肢を残してほしい。	△ 市が実施する一部のイベントについては、オンラインや参加人数を絞るなど対策をしたうえで実施している。 ・堺大魚夜市（オンライン） ・調理講習会（YOUTUBE で配信） ・子育て講座（募集人数を減らして実施）
澤本美奈子	ボランティアグループで取り組んでいる花の作業について、人数を減らす、時間を短くするなどの工夫をして作業したい。	
澤本美奈子	市の行事が中止になる中、地域の祭りは動き出している。時間短縮やマスクをする、会食をしないなど約束事を役所から提案してほしい。	
山本章雄	感染予防行動の「自分ごと」としての認識を醸成するため、現在、市レベルで公表されている「感染状況（感染者数・感染者推移など）」を区レベルの数値で発表してはどうか。	
山本章雄	区内の個人（家庭）や団体（公共施設・学校・商業施設など）で取り組まれている「アイデア感染対策」を紹介し、情報の共有を図ってはどうか。	

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

山本章雄	<p>人間の交流は「対面」が基本であることを含め考えると、「ご用聞き隊」（ボランティア）を結成し戸別訪問による「情報提供」と「聞き取り（会話）」を行うことも一案である。厳重な感染予防の上「ご用聞きローラー作戦」を行ってはどうか。</p> <p>既存の媒体（広報誌・ホームページ等）を使うことも策であるが、「発信機能」だけでなく「届ける（持って行く）機能」を備えた新しい「ツール」（システム）を考えることが必要ではないか。</p> <p>本当に困っているが申し出ない（申し出せない）困窮・衰弱者の救済が必須であり、「尋ねる（訪ねる）機能」により顕在化するのではないか。</p>	
神崎隆之介	<p>一人で自転車通勤・通学しているときはマスクを取ることを認めてはどうか。一人で行動しているのであれば感染リスクは低く、熱中症対策にもなる。</p>	
高田彩加	<p>コロナによって職を失った方が次の仕事を見つけるまでの支援として、コロナ禍で失職した方々を優先的に市や区の臨時職員として雇用してはどうか。（大阪市、京都市などが実際に行っている。）</p> <p>行政側もコロナで業務が増加した部分があると思うので、臨時職員を雇用するメリットがあるのではないか。</p>	
陳代修平	<p>コロナ禍において「何か力になりたい」と思っている人に、こういうところに関わって欲しい、ここに市民の力を貸してほしいとわかりやすく示してはどうか。何かしたいけどどうしたらいいかわからないという人や、そもそも地元にある資源をあまり知られていないことが多いように感じる。</p>	
陳代修平	<p>継続的にまちの中で活動していただける「まちのプレイヤー」になれるように「まちの中の学校」のような機会を作ってはどうか。要望を出すだけの市民ではなく、要望を出して自分でも実現に向けて動くような市民を増やしていく機会が、まさに今なのではないか。それを行政がバックアップすれば、住民主体のまちになっていくのではないか。</p>	

コロナ禍における提案や希望についてのご意見の要旨と関連する実施済み施策

三渡 大介	<p>コロナ禍の真っ只中であるので行政会議を実施するのも厳しい状況でもあると思う。しかし、むしろこのような状況でこそ話し合うことはたくさんあると思うので、ネットワーク環境が整っている人間だけでもオンラインで会議等を実施することも良いのではないか。</p>	
脇田 利奈	<p>コロナ禍で、世間的に若者に対して批判も多いので、実際中区の皆さんが若者に感じていることを聞いてみたい。悪い点があれば一緒に解決すれば交流の機会にもなる。良い点は広めていきたい。</p>	
脇田 利奈	<p>大阪府立大学の下宿生でも利用できるサービスがあるのであれば、大学で広報できたら良いのではないか。実施済み施策について、この会議に参加するまで知らないものが多かった。必要な情報が必要な人に届くようになると嬉しい。</p> <p>大学生はオンライン化に慣れているため、もし地域にzoomなど使いたいけど使えない人などいれば、学生がお役に立てるのではないか。</p>	

提出された意見は適宜整理、要約しています。